

1. 原稿は横書きとし、Microsoft Word で作成されたものとする。日本語・英語以外の言語や数式等を原稿の一部で用いる場合は、投稿の際に申し出ること。
2. 原稿は A4 判の用紙を使って 40 字×35 行に印字したものを提出すること。
3. 原則として用いる字体は MS 明朝で、フォントの大きさは 10.5 とする。英数字は半角文字とする。
4. 原稿は、表題、氏名、日本語要旨、4~10 のキーワード、本文、引用文献、英語要旨の順序で構成すること。英語要旨は、表題、氏名、要旨、4~10 語のキーワードを順に記すこと。
5. 注は脚注とする。
6. 本文において節や項等の記号をつける場合には、節にあたるものは「1.」「2.」…とし、第 1 節第 1 項にあたるものは「1.1」のようにする。以下これに準ずる。
7. 本文中における外国人名等の固有名詞は、原綴りあるいは英語綴りを原則とする。
8. 印刷の書式は編集委員会の定めるものとし、原則として著者による責任校正は 1 回だけ行う。
9. 原則として図表は本文とは別ファイルで提出すること。また、各図表を配置する場所については、本文中に示すこと。(例)「図 1 この辺り」
10. 著作権で保護された内容を投稿論文で使用する場合は、著者が責任を持って著作権者からの許諾を得ること。
11. 引用文献の参照の仕方および文献リストの記述方法は、以下に従うこと。

日本語文献

【単著の本】

本文中) (安田 1971)、(安田 1971, 35)

参考文献) 安田三郎. 1971. 『社会移動の研究』 東京大学出版会

- ・ ピリオド (.) とカンマ(,)は半角。また、文末を除き各ピリオド、カンマの後ろには半角スペースを入れる (以下の全ての例も同様)。
- ・ 著者が多い場合 (一般に 3 名以上) は「第一著者他」としてもよい。

【共著の本】

原純輔・盛山和夫. 1998. 『社会階層 -豊かさの中の不平等-』 東京大学出版会.

【編集本】

土場学他 (編) . 2004. 『社会をくモデル>でみる -数理社会学への招待-』 勁草書房.

高坂健次 (編) . 2000. 『階層社会から新しい市民社会へ 日本の階層システム 6』 東京大学出版会.

- ・ 編者が多い場合 (一般に 3 名以上) は「第一編者他」としてもよい。
- ・ シリーズ本の場合は上の例のように『(1)その本の題名、(2)シリーズ名』のように書く。

【単行本所収の論文】

浜田宏. 2004. 「相対的剥奪の生成 -マートン準拠集団論の精緻化」 三隅一人 (編)『社会学の古典理論』 勁草書房: 149-72.

- ・ 単行本所収論文の場合でも“『○○』所収”ではなく、ページ数を記載する。
- ・ ページ数が 3 桁以上で、百の位以降の桁数が変化しない場合は、その部分を省略すること。

例 1) ○123-34, ×123-134.

例 2) ○198-215 (百の位が変化する場合は明記)

例 3) ○1134-47,×1134-1147,×1134-147

【雑誌論文】

辻竜平・針原素子. 2003. 「『小さな世界』における信頼関係と社会秩序」 『理論と方法』 18(1):15-31.

吉川徹. 2003. 「計量的モノグラフと数理-計量社会学の距離」 『社会学評論』 53(4): 485-98.

外国語文献

Chicago style manual に従うこと。